

J. B. Staudt 作曲 J. B. Adolf 台本

1698年ウィーン初演

Mulier fortis

勇敢な婦人

題材：細川ガラシャ（1563-1600）の生き様

作曲：ヨハン・ベルンハルト・シュタウト

台本：ヨハン・バプティスト・アドルフ

※ 編曲楽譜 D.152 校訂完了（2020年7月）の披露演奏会
2023年11月17日（金）旧東京音楽学校奏楽堂

・ 19時 懇談会：Mulier fortis・ガラシャについて

オペラ Mulier fortis 公演実行委員

北川 央 田中 裕 西脇 純 澤 和樹（司会）

※各委員の略歴はプログラム内にございます。

・ 休憩

・ Mulier fortis 第一部の演奏

休憩をはさんで、

Mulier fortis 第二部の演奏

主催 オペラ Mulier fortis（勇敢な婦人・細川ガラシャ）公演実行委員会

Mulier fortis 原譜の表紙

彼女の真価は遠い地の果てから『勇敢な婦人』

または

キリストゆえにあらゆる苦悩を乗り越えたことで有名な

丹後国奥方

『グラティア(ガラシャ)』(注)細川ガラシャ夫人

舞台上演は以下の諸侯の前で行われた

こよなく崇高な皇帝であり寛容な陛下であられる

やんごとなきオーストリア大公

レオポルド1世

エレオノーラ

ヨセフ1世

カール

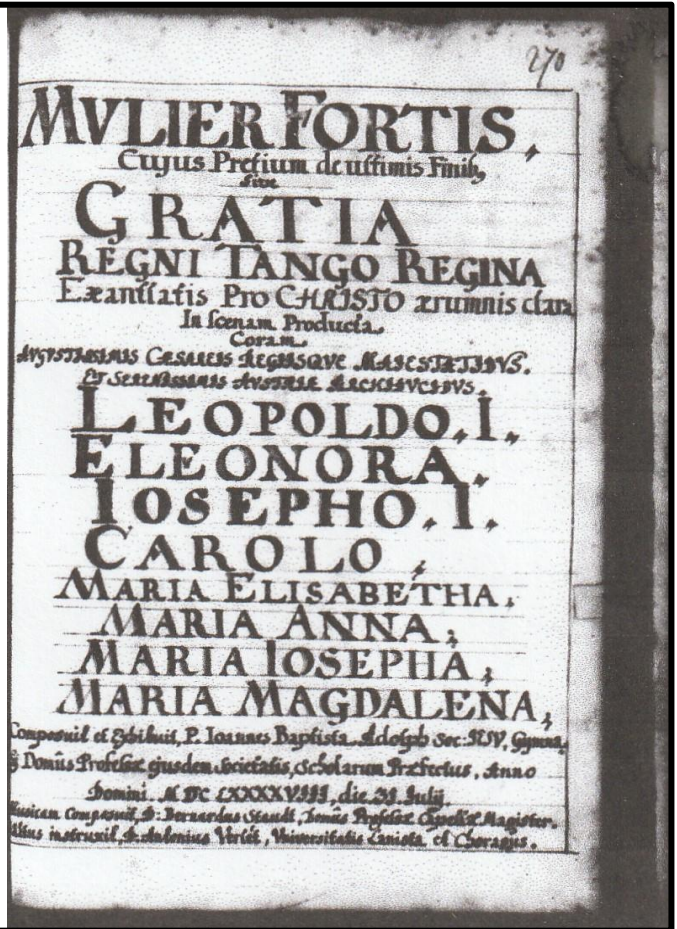
マリア・エリーザベト,マリア・アンナ,

マリア・ジョセファ,マリア・マグダレーナ

オーストリア修道会連立修道誓願ギムナジウム大学学事
長、イエズス会会士 ヨハン・バプティスト・アドルフ神父・

演出により 1698年7月31日上演

修道誓願ギムナジウム楽士長ベルンハルト・シュタウト作曲
ダンス、合唱、フェンシング教師アントン・ヴェルレ氏振付



ご挨拶

皆さま、ようこそお出でくださいました。本実行委員は2001年に編曲楽譜、2004年に原譜を手にしてから、実際に演奏の音響を確認しながらの楽譜校訂を開始し2020年7月に校訂作業が完了し2021年3月に決定していた校訂楽譜お披露目演奏会がコロナ禍の非常事態宣言と重なり中止になりました。奇しくもガラシャ生誕460年の本年、皆さまに聴いていただけますことを感謝しております。

当時、逆族の明智光秀を父とする細川ガラシャの遺物は日本国内にほとんど遺されていませんが、夫との「人質にはならない」との約束をキリストへの不変の信仰によって守ったガラシャ。その生き様は当時の宣教師によって克明に記録されヨーロッパに送られ、オペラ Mulier fortis 作品となりました。

Mulier fortis は台詞と音楽で構成され、台詞にはガラシャはじめ歴史上の役名があり、史実と異なる内容になっておりますが、音楽は、不変(の信仰)、不安、怒り、残忍、悔悛、顕彰が役名で、その音楽の中にガラシャの生き様の本質が込められている、と私たちは考えております。

オペラ上演の際は、不変＝ガラシャとして一人が歌い演じておりますが、今宵の演奏会では「不変」を複数の歌手が演奏いたします。音楽の響きの中に少しでも細川ガラシャを感じていただけたら、最高の喜びです。今後、再度オペラ上演に向けて努めて参ります。何とぞよろしく願いいたします。

オペラ Mulier fortis 公演実行委員会(順不同)

※ 澤 和樹(代表) 豊田 喜代美(代表) 北川 央 佐久間 龍也 田中 裕 西脇 純

オペラMulier fortis(勇敢な婦人・細川ガラシャ)公演実行委員会 活動歴

- ・2001/9ウィーンで豊田喜代美が編曲楽譜《Denkmaeler der Tonkunst in Oesterreich, Band 152》を新山氏から入手。帰国後直ちに全曲音楽部分のみを聖イグナチオ教会(Catholic Church Ignatius, Tokyo)にてオルガンと演奏時、上記編曲楽譜の音響不具合が散見されることを発見した。
- ・2002/7ウィーンで作曲された細川ガラシャ称賛のオペラ《Mulier fortis》が日本で演奏されることへの感謝のミサが大阪カトリック玉造教会(Catholic Tamatsukuri Church, Osaka)にて、レオ池長潤大司教司式, 他司祭方であげられ, 本プロジェクトの開始となった。楽譜発見者新山富美子氏を豊田が招聘した。ミサはNHKニュース報道によって広く知られた。奉納歌唱者は豊田喜代美。奉納曲はMulier fortisよりConstantia(不変)のARIA。
- ・2004/5 東京-ケルン友好50周年行事でConstantiaのARIA演奏(Dioezese Koeln)。歌唱者は豊田喜代美。
- ・2004/10 《Mulier fortis》原譜をマイクロフィルムの形で豊田が入手。現像し楽譜校訂資料とした。
- ・2011/9 《Mulier fortis》の音楽部分(ラテン語)を日本初演(沖縄県立芸術大学/Okinawa Prefectural University of Art 奏楽堂)。編曲楽譜校訂及び校訂浄写譜作成: 福富秀夫。演奏者は豊田喜代美, 大城治, 山内昌也, 宮城愛, 増田勇人, 岡田光樹, 屋比久潤, 新垣伊津子, 庭野隆之, 長谷川潤, 糸数ひとみ他
- ・2012/3 《Mulier fortis》音楽部分を演奏(清泉女子大学旧島津公爵邸にて。Seisen University, Tokyo)。演奏者は豊田喜代美, 大城治, 山内昌也, 宮城愛, 増田勇人, 岡田光樹, 庭野隆之, 須賀麻里江, 小林端葉, 林翔子他
- ・2013/3 熊本市細川家霊廟前及び庭で《Mulier fortis》音楽演奏。※参考資料の動画: NHKニュース検索「細川ガラシャ描いたオペラ披露熊本」。演奏者は豊田喜代美, 大城治, 山内昌也, 五郎部俊朗, 増田勇人, 糸数ひとみ
- ・2013/3 《Mulier fortis》オペラ上演。沖縄県立芸術大学(Okinawa Prefectural University of Art) 奏楽堂。楽譜校訂: 福富秀夫, 演奏者は豊田喜代美, 五郎部俊朗, 大城治, 山内昌也, 増田勇人, 島袋君子, 佐久間龍也, 岡田光樹, 屋比久潤, 新垣伊津子, 庭野隆之, 糸数ひとみ。演出: 平尾力哉。舞台監督: 小栗哲家。舞台美術: 小林優仁
- ・2013/12 《Mulier fortis》オペラ上演。上智大学創立100年記念公演。上智大学主催紀尾井ホール(Kioi Hall, Tokyo)。ラテン語での歌唱の間に日本語の台詞を挿入しナレータの解説付。編曲楽譜校訂: 福富秀夫(2011), 佐久間龍也(2013)。演奏者は豊田喜代美, 加賀清孝, 山内昌也, 田中健晴, 増田勇人, 大上幸子, 島袋君子, 佐久間龍也, 岡田光樹, 須賀麻里江, 小林端葉, 庭野隆之, 林翔子。演出/脚本: 平尾力哉。舞台監督: 小栗哲家, 舞台美術: 小林優仁, 照明: 辻井太郎, 衣装: 渡辺園子, 舞台スタッフ: アートクリエイション
- ・2014/1 《Mulier fortis》オペラ上演。上智大学創立100年記念公演。主催長岡京記念文化会館(Nagaokakyo Memorial Culture Hall, Kyoto)にて。歌唱の間に日本語の台詞を挿入し解説者の進行付40分間の公演。演奏者は豊田喜代美, 大城治, 五郎部俊朗, 山内昌也, 増田勇人, 大上幸子, 玉置麻侑, 佐久間龍也, 岡田光樹, 屋比久潤, 小林端葉, 庭野隆之, 林翔子。演出/脚本: 平尾力哉。舞台監督: 小栗哲家, 舞台美術: 小林優仁, 照明: 辻井太郎, 衣装: 渡辺園子, 舞台スタッフ: アートクリエイション
- ・2021/3 : 2020年7月完成の編曲校訂楽譜お披露目演奏会『バロックオペラ《Mulier fortis(勇敢な婦人・細川ガラシャ)》演奏会』(ラテン語)。東京文化会館(Tokyo Bunka Kaikan)小ホール。編曲楽譜校訂: 福富秀夫(2011), 佐久間龍也(2013, 2020), 加賀清孝(2020, および校訂浄写)。演奏者は豊田喜代美, 加賀清孝, 仲本博貴, 小貫岩夫, 金沢青児, 西山詩苑, 佐久間龍也, 岡田光樹, 萩原安里紗, 栗林衣李, 山本大, 倉橋健, 東野匡訓, 鈴木愛美 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期。公演日は緊急非常事態宣言期間中。のため中止。

オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員のご紹介

■ (五十音順) 北川 央、佐久間 龍也、澤 和樹(代表)、田中 裕、豊田 喜代美(代表)、西脇 純

北川 央 *Hiroshi Kitagawa* オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員

日本史学者。1961年大阪府生まれ。神戸大学大学院文学研究科修了。1987年に大阪城天守閣学芸員となり、主任学芸員・研究主幹などを経て、2014年から大阪城天守閣館長を務め、昨年3月末で退任。現在は九度山・真田ミュージアム名誉館長。この間、東京国立文化財研究所・国際日本文化研究センター・国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館・国立劇場・神戸大学・関西大学など、多くの大学・博物館・研究機関で委員・研究員・講師を歴任。織豊期政治史ならびに近世庶民信仰史、大阪地域史専攻。『大坂城 秀吉から現代まで 50の秘話』(新潮社)、『大坂城をめぐる人々―その事跡と生涯』(創元社)、『大坂城と大坂の陣―その史実・伝承』(新風書房)、『大坂城と大坂・摂河泉地域の歴史』(新風書房)、『なにわの事もゆめの又ゆめ―大坂城・豊臣秀吉・大坂の陣・真田幸村―』(関西大学出版部)ほか、著書多数。『そのとき歴史が動いた』(NHK)、『歴史街道～ロマンへの扉～』(朝日放送)などの歴史番組、『プリンセス トヨトミ』『真田十勇士』などの映画、OSK 日本歌劇団「真田幸村～夢・燃ゆる～」 「YUKIMURA-我が心 炎の如く-」、宝塚歌劇団・OSK 日本歌劇団のOG 合同公演「大阪城パレードー将星☆真田幸村ー」「永遠のカンパニージャー 鬼小十郎と真田幸村ー」などの舞台作品も多数監修。

田中 裕 *Yutaka Tanaka* オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員

哲学者。1947年栃木県生まれ。東京大学大学院(科学史・科学哲学専攻)修了、クレアumont神学院プロセス研究センター客員、上智大学文学部教授、上智大学大学院哲学研究科委員長を経て、現在は上智大学名誉教授。他に、東西宗教交流学会会長、日本ホワイトヘッド・プロセス学会会長、西田哲学会理事、聖グレゴリオの家(宗教音楽研究所)理事を務めている他、中世哲学会、カトリック神学会の各会員。著書に『逆説から実在へー科学哲学・宗教哲学論考』(行路社)、『ホワイトヘッドー有機体の哲学』(講談社)など。編著に『西田幾多郎講演集』(岩波文庫)、『北條民雄集』(岩波文庫)など。

田中裕公式ホームページ: http://tourikadan.com/yutaka_tanaka/nihongo.him

講義・講演の動画記録: http://tourikadan.com/yutaka_tanaka/mfortis/

西脇 純 *Jun Nishiwaki* オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員

神学者。南山大学文学部神学科卒業、同大学院文学研究科神学専攻博士前期課程修了、同博士後期課程単位取得満期退学。ドイツ・在トリーア教皇庁認可神学部博士課程修了(神学博士)。2000年、南山大学総合政策学部講師、2004年、同人文学部キリスト教学科助教授、2012年、同教授。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所勤務(2018年～2020年)を経て、2021年より、西南学院大学国際文化学部国際文化学科教授。日本グレゴリオ聖歌学会会長、国際グレゴリオ聖歌学会ドイツ語圏支部会、日本宗教学会、日本基督教学会、キリスト教史学会、日本カトリック神学会、各会員。

『詩編をよむために』聖書協会共同訳(共著)ISBN:9784820292807

『Ad nuptias Verbi.Aspekte einer Theologie des Wortes Gottes bei Ambrosius von Mailand(Trierer Theologische Schriften 69)』xxviii+345pp ISBN:3790212989

リサーチマップ https://researchmap.jp/jun_nishiwaki/published_papers

■ 佐久間 龍也、澤 和樹、豊田 喜代美の略歴は、13 ページ「演奏者略歴」をご照覧くださいませ

『魚雁集細川家に残っている手紙』思文閣出版平成2年発行 懐徳録 ガラシャ婦人の最期pp144-146

忠興夫人は、夫忠興を始め、子供たちへの形見の品や消息を、「おく」と「しも」の二人に渡し、三男の三千代の乳の人には、三千代の形見を渡した。「おく」と「しも」の二人は、夫人のたつての「仰せ」こぼみがたく、夫人の最期を見届けてからこの館を逃れ出で、その有様を忠興に知らせることを約束した。

夫人は、

さては心にかかる事なし。小斎、介錯仕り候え

と命じ、小斎は長刀をさげ、老女を先に立てて次の間に来た。夫人は髪を自らキリキリと巻き上げたが、小斎が、左様にてはござなく候

と言うと、夫人は、

心得たり

と言って襟を両方へハッと押し開いた。小斎は敷居をへだてていたが、

御座の間に入り候こと憚り多く候えば、今少し、こなたへ御出遊ばされ候え

と言った。夫人はそこで敷居へ近い畳へ居直った。小斎はその時、長刀で夫人の胸元を突き通した。

「おく」と「しも」は泣く泣く身支度のためにその場をはずし、小斎らは、夫人の遺体に薙(しとみ)ややり戸をかけ

「鉄砲の薬」をまきつけて火をかけた。別室に下がった小笠原小斎と川北無世とは、川北六右衛門の解釈で切腹

し、六右衛門も切腹した。金津助次郎は、夫人の遺骸が燃えつきるまで、燃草を投げ込み、台所にはしごをかけて屋根の上に出で、大肌抜いで立ちながら、

われは金津助次郎という者なり。越中守奥方生害にて、小斎、石見も殉死を遂げおわんぬ。

士(さむらい)の腹切って主の供する様を見よ。

と高らかに呼ばわり、腹切って焰の中に飛び入った。

「おく」と「しも」は仕度をして外へ出ると、早や火は家にまわっていた。小斎に頼まれて飛脚となった介

六と新左衛門も家を出て二丁程行くと、猛火が盛んに燃えさかっていた。介六は、

主、親の最期を見捨て、一步も先へ行かれず

と言って引き返して火の中に飛び込んでしまった。

以上が、忠興夫人の最期の有様である。時に夫人は37歳であった。

夫人は初め、建仁寺の芝浦永雄長老に三十余回も参学した。夫の忠興は夫人に向かい、

大徳寺の参学よりは心安き物なるべし

と言っていた。その後、加々山小右衛門の母が切支丹を薦めた。夫人はかねがね、ことのほか「物忌み」をし

ていたが、切支丹となって、それも少なくなったので、忠興は、

切支丹は物を打ちやぶりにして“はか行く”べし

と考え、薦めたことさえあったが、のちには、やめさせようとしても、夫人はやめなかった。

夫人の身近にあったものは細川家にはほとんど残っていないが、わずかに短冊一枚、書簡一枚、光千代のために作った下着数枚、それに刺繍のある布のみが残っている。

音楽作品《Mulier fortis》演奏における本実行委員会の指針と今後の展望

豊田 喜代美

(声楽家)

2001年ウィーンの地において、原譜発見者の新山富美子氏が出版なさった編曲譜を豊田が新山氏から購入した際、新山氏は「パス神父から“ウィーン国立図書館に必ず日本のキリシタンが題材の音楽作品が在るので探さない”と言われ、探したら在った。イタリア人古楽奏者に演奏可能な譜面にするよう依頼して直ぐに出版した。」とのことだった。豊田は帰国して直ちにペトロ・ネメシエギ神父(上智大学名誉教授)を訪ね、Mulier fortis 編曲譜をお見せし、その場でラテン語を声に出して翻訳していただいて収録し、Mulier fortis の内容を知った。その時、ネメシエギ教授は「音楽は人の感情が役柄になっています。台本ではガラシャや忠興が役名ですが、ガラシャは病気でこの世を去ったことになっていますし忠興はただの極悪人になっており、史実が損なわれています。このままを公演してはいけません。」と仰いました。このお言葉が、本実行委員会演奏の指針になっております。2013年のオペラ舞台公演の際、演出の平尾力哉氏は、上記指針に則り、史実と異なる原譜の台本は使用せず、音楽に注目した舞台制作をなさいました。平尾氏は「音楽にこめられたメッセージは言葉を凌駕している。音楽を聴く人がガラシャの生き様を体感できる環境として、ガラシャと忠興およびガラシャと侍女・いとこの台詞、そしてナレーションによる当時の歴史的背景の説明を挿入した。」とし、歌うガラシャと琉球舞踊を舞うガラシャの2人のガラシャを登場させ、ガラシャの生き様とその想いを表現しました。更にガラシャを身近に感じられることを目的として、ガラシャイコールConstantia不変(の信仰)他、台本の役に該当する音楽の役を設定しました。今宵の演奏会では、この公演時の台詞とナレーションを採用します。そのオペラ舞台上演では、Constantia(不変)の全てのナンバーをガラシャ役が演技付きで歌いましたが、今宵の演奏会では Constantia を複数人の歌手が歌います。

当時、逆族の娘とされたため、日本ではガラシャの記録はほぼ抹殺されましたが、当時の宣教師がガラシャの生き様を克明にヨーロッパに書き送って作曲された《Mulier fortis》作品の中に、ガラシャは生きることができていると思います。演奏する度に作品が制作されたことへの感謝の気持ちは大きくなります。

オペラの要素は音楽と演劇であると認識しておりますが、我々は先ず作品の音楽を体感することを重要に思っております。言葉では伝えきれない想いは音楽の音響の中に個々に感じることができます。

本実行委員会代表となられたヴァイオリニストで指揮者の澤和樹氏と共に、今後も更に「音楽」を礎に、実行委員の先生方と、この《Mulier fortis》原譜の台本の読み込みを更に進め、原譜台本の作成意図を尊重して考察し、史実が損なわれていることのないオペラ舞台制作に向かいたいと考えております。

今宵、編曲楽譜を原譜と照らし合わせて校訂した現時点の楽譜のお披露目演奏会をガラシャ生誕460年の今年に開催できますことを幸いに思います。ガラシャは、音楽作品 Mulier fortis ゆえに、325年にわたって日本とヨーロッパの文化交流を成し得ているのではないのでしょうか。

音楽作品に込められたガラシャの心を感じる感慨と喜びを、日本だけでなくヨーロッパの人々、全世界の人々と分かち合いたいと願っております。

オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員

ガラシャ ～ キリスト教に救われた戦国女性の生涯

北川 央

(九度山・真田ミュージアム名誉館長、大阪城天守閣前館長)

父 明智光秀

「細川ガラシャ」、一般にこの名前で知られる女性は、俗名【ぞくみょう】を「玉子【たまこ】」といい、明智光秀の三女として、永禄 6 年(1563)この世に生を享【う】けた。明智氏は代々美濃国の守護を世襲した土岐【とき】氏の庶流で、玉子の母は美濃国の土豪妻木【つまき】勘解由左衛門尉【かげゆざえもんのじょう】範熙【のりひろ】の娘熙子【ひろこ】と伝えられる。

天正 6 年(1578)、織田信長の命により、玉子は 16 歳で細川藤孝【ふじたか】の嫡男忠興【ただおき】に嫁いだ。父明智光秀と細川藤孝とは、ともに足利義昭を擁して室町幕府再興に奔走した間柄で、両家は昵懇【じっこん】であったから、主命とはいえ、当時としてはたいへん恵まれた結婚であった。

忠興は、玉子と同じ永禄 6 年の生まれで、結婚の翌年には長女の長【ちょう】、さらにその翌年には嫡男熊千代【くまちよ】(のちの忠隆【ただたか】)が誕生している。

この頃光秀は、信長から丹波・丹後の平定を命じられ、藤孝・忠興父子も与力【よりき】としてこれに付属させられていた。そして、両国の平定がなるや、天正 8 年 8 月、光秀は丹波一国を与えられて亀山城主となり、藤孝は宮津城主として丹後一国を領することとなった。

本能寺の変

順風満帆とも思えた両家の間に激震が走ったのは天正 10 年 6 月 2 日のことであった。光秀が、京都・本能寺に宿泊していた主君織田信長を襲い、これを斃【たお】したのである。

光秀から、長年の盟友である藤孝・忠興のもとに支援を頼む急使が到着したのは翌 3 日のことであったと伝えられる。光秀の期待に反して、藤孝・忠興父子はともに髻【もとどり】を切って主君信長に対する弔意を表し、藤孝は忠興に家督を譲り、自らは「幽斎玄旨【ゆうさいげんじ】」と号して、隠居の身となった。忠興は玉子に、「御身の父光秀は主君の敵なれば同室叶ふべからず」と告げて離縁し、玉子を山深い味土野【みどの】に幽閉した(『細川家記』)。

光秀は、天正 10 年 6 月 13 日の山崎合戦で羽柴秀吉に敗れ、坂本城を目指して落ちる途中、山科【やましな】郊外の小栗栖【おぐるす】で落ち武者狩りに遭い、波乱万丈の生涯を終えた。2 日後には坂本城も落ち、玉子の母をはじめ、明智家の一族・重臣が悉【ことごと】く城と運命をともにした。

大坂城下の生活

翌天正 11 年 4 月 21 日の賤ヶ岳【しずがたけ】合戦に勝利し、柴田勝家を滅ぼした羽柴秀吉は、信長後継者の座を不動のものとして、大坂城を築き、天下統一の拠点と定めた。

忠興は弱冠 21 歳ではあったが、初期秀吉政権において重き地位を占めた。そんな忠興に対して秀吉は、天正 12 年、玉子との再婚を認めた。

味土野に幽閉される際、懐妊していた玉子は、天正 11 年に次男与五郎【よごろう】(のちの興秋【おきあ

き))を生んでいた。その幼児【おさなご】を連れて、玉子は大坂城下の細川屋敷に迎えられたが、忠興は家臣二人に命じて昼夜を分かたず玉子を監視させた。侍女たちが外出したら、行き先を突き止めて報告させ、玉子への伝言も許さなかった。

人里離れた味土野での幽閉生活からようやく解放された玉子を待っていたのは厳しい監禁生活であった。加えて、玉子が味土野にいる間に忠興は側室を迎えて子供も生まれていた。玉子は「たびたび鬱病【うつびょう】に悩まされ、時には一日中室内に閉じ籠って外出せず、自分の子供の顔さえ見ようとせぬ」状態になった(フロイス『日本史』)。

キリスト教への関心

そんなガラシャではあったが、夫忠興を通じて伝え聞く、忠興の友人高山右近の話にはたいへん興味を覚えた。右近が語るキリスト教の教えに深い関心を持った玉子は、そこに一筋の光明を見出そうとしたのである。

厳しい監視下にあった玉子は、夫忠興が秀吉に従って出陣し、大坂を留守にした際、ちょうど彼岸【ひがみ】の日に、侍女たち6、7人が寺院に参詣するふりをして、玉子を取り囲んで屋敷を出、大坂城下に建てられていた教会へと急いだ。

玉子は、夫忠興を通じて伝え聞いたキリスト教の教えに対する疑問を、わずかな時間の中で次々と浴びせかけた。日本人の高井コスメ修道士が誠心誠意これに応え、問答に納得した玉子は、再び教会を訪れるのは困難をきわめるので、今この場で洗礼を授けて欲しいと願った。しかし、玉子の素性【すじょう】を知らず、秀吉の側室ではないかと疑った教会側は、「もっとゆっくりと説教を聞かれ、ゆとりをもって受洗される方がよろしかろう、と希望をもたせ、鄭重【ていちょう】に彼女を送り帰りし」、一行が細川屋敷に入っていくのを見届けて、彼女が当主忠興夫人の玉子であることを知った(フロイス『日本史』)。

その後、玉子は侍女頭である清原いとに、信仰上の疑問をしたためて教会へもたせ、その返答を彼女に持ち帰らせた。そして、いとは洗礼を受けて、「マリア」と名付けられた。

玉子は、侍女たちだけでなく、細川家家臣たちも改宗させようと試み、次々と成果を挙げ、ついには彼女の監視役を務めた家臣さえもキリシタンにしてしまった(アントニオ・プレネスティノ書簡)。そこには、かつて鬱病に悩まされた姿はどこにもなく、見違えるように元気でたくましい玉子がいた。

ところが、彼女を取り巻く状況は一変する。九州を平定した関白豊臣秀吉が、天正15年6月19日、博多でキリシタン禁教令を發布し、宣教師たちの国外追放を命じたのである。キリシタンとして生き抜くことを決意した玉子は過酷な現実と対峙せざるを得なくなった。

九州平定戦から大坂に戻ってきた忠興は、家臣といい、侍女といい、屋敷内にキリシタンが満ち溢【あふ】れているのを知って愕然【がくぜん】とし、激しく怒り狂った。けれども玉子は、秀吉や忠興が棄教を迫った際には「死ぬ誓いを立て」(レイス・フロイス書簡)、殉教をも辞さない強い覚悟で、キリシタンとして生き抜く決意を新たに、洗礼を受けることを決心したのである。

とはいうものの、厳しい禁教令のもと、玉子が教会に赴くことは容易ではなく、結局、清原マリアが洗礼の方法について教えを受け、玉子はマリアによって受洗し、「ガラシャ」という洗礼名を授かった。

しばらくすると、禁教令もずいぶん緩やかになり、忠興もガラシャの信仰を容認するようになった。そして、慶長3年(1598)8月18日、豊臣秀吉が伏見城で62歳の生涯を終えた。

最期

秀吉は、自らの死後、徳川家康と前田利家を両輪に政権を運営するよう遺言したが、翌慶長4年閏【うるう】3月3日、はやくも前田利家が亡くなり、豊臣政権はバランスを失い、事態は一気に関ヶ原合戦へと突き進む。慶長5年6月16日、徳川家康が会津の上杉景勝征討のため、軍勢を率いて大坂城を出陣すると、その隙【すき】をついて石田三成らが打倒家康の兵を挙げた。三成らは大坂城下の諸大名の屋敷に使者を遣わし、妻子を人質に出すよう要求した。

細川邸にも三成の使者がやってきたが、ガラシャはこれを敢然とはねつけ、屋敷にいた次女多羅【たら】、三女万【まん】、嫡男忠隆の妻千世【ちよ】(前田利家七女)、忠興の伯母宮川殿【みやがわどの】らを城外に脱出させた上で、キリシタンの身ゆえ自害はならぬと、ガラシャは家老の小笠原少斎に命じて、その手にかかり最期を遂げた。慶長5年7月17日のことであった。

関ヶ原合戦は徳川家康率いる東軍の大勝利に終わった。戦後忠興は、ガラシャの死をたいそう悲しみ、翌年、京都の教会でガラシャ一周忌のミサを盛大に営んだ。忠興以下ほとんどの家臣が参列し、教会周辺は押し寄せる群衆で大騒ぎとなった。日本人のイエズス会士のイルマン・ビセンテが説教を行い、その最後を「ドナ・ガラシャは存命中には徳に励み、そして死に臨んでは、皆に彼女への大きな熱望を残した」と締めくくった。これを聞いた「長岡越中殿(忠興)とその側近者たちは涙を抑えることができぬほどであった」と伝えられる(1601年度「日本年報」)。

大阪市中央区森ノ宮中央2丁目には、細川屋敷の台所の井戸と伝える「越中井【えっちゅうい】」が残り、その傍らには徳富蘇峰【とくとみそほう】の筆になる「越中井 細川忠興夫人秀林院殉節之遺址」という石碑が建つ。右側面には、「散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ」というガラシャの辞世が刻まれている。

オペラ *Mulier fortis* 公演実行委員会委員

楽劇《Mulier fortis》の台本にみるガラシャ像について

田中 裕

(聖グレゴリオ宗教音楽研究所理事、上智大学名誉教授)

二つの異なる世界(カトリックの精神世界と武士道の世界)を共に生きた細川ガラシャの思想と生き様は、これまで多くの人々の関心の的となってきたが、「ガラシャ」の名前が、イエズス会の宣教師達の書簡によってヨーロッパのカトリック世界でも知られており、彼女を主人公とした物語が語り継がれ、音楽劇として1698年、オーストリアのウィーンで、ハプスブルグ家の皇帝レオポルド一世とその家族の前で上演されたことは、余り知られていない。

このオペラの台本は、1627年にフランス人イエズス会士のフランソワ・ソリエがまとめた「日本教会史」がもととなっており、そのオランダ語版が1667年にオランダ人イエズス会士コルネリウス・アザルによってアントワープで刊行、さらにそのドイツ語版が1678年にウィーンで、「丹後の女王の入信とキリスト教的美德」というタイトルで出版されている。「丹後の王妃ガラシャ」の物語は1838年にフランスでも公刊されているので、十九世紀初め頃までは、ガラシャの名前は、フランス、オランダ、神聖ローマ帝国で語り継がれていたといつてよい。

この作品は、ガラシャを聖女として顕彰する目的で書かれたものであるもので、史実を忠実に反映したものではない。たとえば、秀吉による禁教令後の二十六聖人殉教の時代の話、関ヶ原の合戦の頃の話、その後の元和の大殉教の頃の話(たとえば、「阿弥陀」の名を口にすれば棄教したと見て拷問をやめるといような話)が、時代的に区別されずに混淆されている。

しかし、史実ではないにしても、殉教を主題とする創作としてみる限り、十七世紀の西欧のカトリック諸国の人たちのキリスト教的世界観がよく分かるという点で、Mulier Fortis という作品はなかなか興味深いものである。

ギリシャ悲劇ではコロス(歌舞団)の役割が大切であるが、それを摂取したキリスト教的受難劇では、コロスは、上演されるドラマの「想定された観客」の心を表現する役割を演じる。つまり、人格化された「不変(の信仰) constantia」「怒り Furor」「残忍 Crudelitas」「不安 Inquies」「悔悛 Poenitudo」の演ずる幕間のアレゴリーは、いずれもドラマを見ている観客の心の世界の葛藤を表現するものであり、このコロスによって遠く離れた国のキリスト者の殉教劇が、時代的地域的な制約を越える普遍性を獲得することがめざされている。

人格化された人間の情念を表すコロスだけでなく、そもそもこの劇の登場人物は「ガラシャ」(恩寵を人格化した人物でもある)、夫の「ヤクンドヌス(越中殿)」を除いて、原則として固有名詞では呼ばれず、王、王妃、王子1、王子2、娘1、娘2、キリスト者(高山右近がモデルか)、僧侶、などのように普通名詞で表現されている。こうすることによって、観客でもあったハプスブルグ家の王も王妃も王女達も、そこで上演されているドラマが、遠い異国の物語ではなく、自分たち自身の事柄でもあるというように、感情移入することができたであろう。

要するに、この脚本は、ガラシヤの殉教の物語を、西のカトリック諸国のクリスチャンにも理解できるような形で上演することをめざして書かれていること、「不変のカトリック信仰」のあるべき姿を「はるか東方の国の王妃の殉教」という特殊な事件を素材にして劇化したということである。まず、第一幕第二場、祭壇の前で祈るガラシヤと息子達の場面に注目したい。突如大いなる地震がおきて、祭壇に安置されていた十字架が落下する。周章狼狽する息子達の前で、その落下した十字架を祭壇にもどしつつガラシヤは次のように云う。

「それがどのような予兆であれ、キリスト者に相応しい高貴な心で耐えることができますように」

この地震そのものは史実に基づいているが、楽劇の中では、福音書の伝えるイエスの十字架上の死の場面をふまえて、「キリストに倣う」ガラシヤが殉教の死を受け入れたことが、ここで暗示されている。これはドラマトロギーとして優れている。

また、第一幕第五場、凱旋帰還する王による嵐のようなキリスト教迫害は避けられないことが分かったとき、逃亡を勧める家臣に対してガラシヤの語る次の言葉は、この楽劇の根本主題に関わる重要なものである。

「王妃:その(迫害の)嵐の原因は何ですか?」「家臣:新しい信仰です」「王妃:ああ何と祝福された罪でしょう! 神の故に私が罪あるものとされるなら、苦境から逃れて私が自分の幸せだけを求めることは間違っています。ガラシヤ(恩寵)は、勇敢に、この場所に、しっかりと立たなければいけません。たとえ、地獄の門が開き、忿怒の群が私を襲おうとも、私の心は、神が見捨てたまわぬがゆえに、平安に満たされています。」

正確な史実を知らなかった *Mulier fortis* の作者であったが、上の台詞は、おそらくガラシヤと同時代を生きた宣教師達の書翰の内容が反映されており、逃亡せずに死を受け入れたキリスト者としてのガラシヤの心を良く捉えている。

次に「勇敢な婦人」という楽劇の表題の意味と、カトリック教会のラテン語の典礼聖歌のなかに歌われている「勇敢な貴婦人」について付言しておきたい。

Mulier Fortis(勇敢なる婦人)という言葉は、旧約聖書、箴言 31:10(ラテン語訳)にある理想の妻の描写に由来している。

「勇敢な婦人を誰が見出すことができよう。彼女の価値は遙か遠くの国から来る(真珠よりも貴い)。」

そしてカトリック教会には、次のようなラテン語の典礼聖歌「勇敢な貴婦人の賛歌 (*Fortem Virili Pectore*)」が伝承されている。

—勇敢な貴婦人の賛歌 *Fortem Virili Pectore*—Silvio Antoniano(1540-1603)作

「我らすべてが声を挙げて勇敢なる貴婦人を頌えましょう。聖なる栄光とともにその御名をほめ歌いましょう。彼女は純一なる天上の輝きに満たされ星空の光に輝いています。彼女は下界の事物への愛を拒否し、この地上に留まることを気遣いませんでした。諸々の天に向かって苦難の道を行きその身体をしっかりと従わせ、その靈魂を祈りの甘美なる糧で満たしました。彼方の世界で、この世の喜びを捨てた彼女は至福を味わうでしょう。王なるキリストよ、全てのものを勇敢ならしめる御方よ、我らの至聖なる行いは

あなたのものです。高きところに居る彼女のとりなしの祈りによって、あなたの民の叫びを憐れみをもって聞き入れてください。」

この賛歌の作者 Silvio Antoniano は北イタリア出身の音楽家であり、当時の人文主義の教養を身につけた学者でもあった。彼はローマ大学の学長をつとめたあと枢機卿にもなった。彼の逝去した 1603 年にこの「勇敢な貴婦人の賛歌」は典礼聖歌になったが、これは奇しくもガラシャ帰天の三年後でもあった。

楽劇 Mulier fortis(勇敢な婦人)は、ガラシャを讃える顕彰碑を建てるところで終わっているが、カトリック教会では、「勇敢な貴婦人の讃歌」という典礼聖歌によって、ガラシャの不変の信仰を蔭ながら顕彰し続けてきたと言って良いだろう。

2001 年より長きにわたって Mulier fortis の楽譜校訂作業をされたことによって企画された今回のコンサートは、17 世紀末のレオポルド一世の宮廷音楽の一端を現在の観客に伝えてくれる点で、まことに意義深いものである。それは、ハイドンやモーツァルトに代表される古典派の成立以前にも、ウィーンが既に第一級の音楽の都であったことを再認識させてくれるからである。

Mulier fortis は、皇帝レオポルド一世とその家族の前で上演されたが、皇帝は単に音楽の庇護者であっただけでなく、彼自身も優れた作曲家であった。アーノンクールとウィーン・コンツェントゥス・ムジクスによって 1963 年に録音された CD「レオポルド一世の宮廷にて」には、当時の代表的な作曲家の曲と並んで、レオポルド一世作曲の「天の皇后」も収録されている。「17 世紀初頭の音楽と演劇が結合した最新流行の藝術だったオペラは、ウィーンに伝えられるとただちにこの地に迎え入れられ、熱烈で洗練された住処を見出した。こうしてウィーンは 17 世紀にイタリア・オペラの豪華絢爛たる中心地の一つとなった」とアーノンクールがレオポルド一世の時代の宮廷音楽を評価していることを付言しておきたい。

オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員

生身の心——細川ガラシャ夫人に寄せて

西脇 純

(西南学院大学国際文化学部国際文化学科教授)

学生時代に三浦綾子の『細川ガラシャ夫人』を読んで感銘を受けて以来、細川ガラシャは私にとって作中の主人公玉子(ガラシャ夫人)のイメージそのものである。このたび本演奏会実行委員会の末席を汚すことになったのを機に、ひさしぶりに小説を読み返してみた。

読み始めたところで、この小説のオーディオ版が制作されていることを知り、さっそく読書と並行して Audible でも聞くことにした。オーディオ版は、著者の後書き「終わりに」も含めて 18 時間 50 分という長丁場である。だが、プロの俳優・声優陣による朗読が大変素晴らしく、引き込まれた。まもなく読み終わり、また聞き終えた。学生の頃の読後感がよみがえり胸が熱くなった。と同時に、オーディオ版の読み聞かせの効果もあったのだろうか、三浦文学の描くガラシャ夫人が、私のような者にも近い存在になっていることに気がついた。

若い頃には理解できないまま読み飛ばしていたか、あるいは置き去りにしていた箇所、この印象は特に顕著だった。たとえば夫忠興との閨事のさなかにジュスト高山右近の顔を思い浮かべる玉子(ガラシャ夫人)、かと思えば幽閉先の味土野でいくつもの和歌に忠興への思慕を込めて「つらし、つらし、つらし」と書き散らす玉子、帰還後、忠興に側室おりようと引き合わされるや「おりようとやら、下がってよろしい」と冷たく言い放った玉子、などである。

「わたしは彼らの肉から石の心を除き、肉の心を与える」——読みながら私は聖書の一節を思い出していた。エゼキエル書 11 章 19 節である。キリスト教に心惹かれ、手紙を通して密かに宣教師から信仰を学び、侍女の清原マリアから洗礼を受け、愛読した『こんてむつすむん地』(トマス・ア・ケンピスの『キリストに倣いて』の邦訳書)を侍女らに説いて聞かせていた玉子。小説『細川ガラシャ夫人』でも存分に描かれる、ほとぼしるような彼女の篤い信仰の傍に、玉子にもあのような「生身の」心が潜んでいたのか。否、人として避けようのない、荒れ狂う業海と真摯に向き合い、うち克ったからこそ、玉子もまた真に天賦の「生身の心」の持ち主であったと云うのではないか。

今宵上演される「Mulier Fortis 勇敢な夫人 細川ガラシャ」には、コンスタンティア(不変)、フロル(怒り)、クルデリタス(残忍)、インクイエス(不安)、ポエニテュード(悔悛)といった、さまざまな生身の心のありようが人格化されて登場する。なかでもコンスタンティアは、ガラシャ夫人の信仰の代弁者であり、終始毅然とした態度でフロル(怒り)やクルデリタス(残忍)らと対峙する。

そして遂にフロル(怒り)をして「コンスタンティアが勝利者になった。[...]コンスタンティアよ、永遠なれ、あなたに勝利を譲ろう」と言わしめる。生前の細川ガラシャ夫人の生身の心にもきっと立ちはだかったであろう怒り、残忍、不安。彼らに替わり、プレミアム(顕彰)とヴィルツータス(美德を示す者たち)が現れる。彼らによってガラシャ夫人の生涯を顕彰するコンスタンティア(不変)の柱が立てられて音楽劇は幕を閉じる。

勇敢な夫人細川ガラシャへの戴冠のしるしであるこのコンスタンティア(不変)は、私たちの生身の心にも強く印象づけられるであろう。

オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員

演奏者略歴

[指揮] 澤 和樹 *Kazuki Sawa* (ヴァイオリニスト、指揮者)

東京藝術大学大学院修了。「安宅賞」受賞。ロン＝ティボー、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞などヴァイオリニストとして国際的に活躍。1980年より文化庁在外研修員としてロンドンに派遣され、ジョージ・パウク、ペラ・カトーナ両氏に師事。1984年に東京藝大に迎えられとともに本格的な演奏活動を開始。1989年には、文部省在外研究員としてロンドンの王立音楽院に派遣され、さらに研鑽を重ねた。この時期、アマデウス弦楽四重奏団メンバーとの出会いにより澤クワルテットの結成を決意する。1996年より指揮活動を開始。2003、4年には響ホール室内合奏団、2005年には東京弦楽合奏団を率いて英国各地で演奏し絶賛される。九州交響楽団、東京フィル、日本フィル、札幌交響楽団、紀尾井ホール室内管弦楽団等にも客演し好評を博す。東京藝術大学音楽学部教授、音楽学部長を経て2016年より2022年まで東京藝術大学長。2023年、韓国文化体育観光部長官賞受賞。現在、東京藝術大学および英国王立音楽院名誉教授。東京大学先端科学技術研究センター・フェロー。オペラ *Mulier fortis* 公演実行委員会代表

[Constantia 不変・細川ガラシャ] 豊田 喜代美 *Kiyomi Toyoda* (声楽家ソプラノ)

桐朋学園大学卒業。ドイツ・ケルン音楽舞踏大学留学。北陸先端科学技術大学院大学博士前期・後期課程修了。博士(知識科学/博士論文「クラシック音楽歌唱における知識創造モデル—スキルサイエンスからの接近」)。小澤征爾、尾高忠明、高関健、大野和士、小林研一郎、ホルスト・シュタイン、ロビン・オニール、ズデニェク・コシュラー他の指揮者の下、国内外オーケストラと J.S.バッハ、ヘンデル、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、マーラー、R.シュトラウス、シェーンベルク、ベルク、ブーレーズ他の作品を共演・日本初演し、NHK 交響楽団「メサイア(モーツァルト版)」若杉弘指揮他のライブ CD 多数。東京二期会、日生劇場、他のオペラ公演で 20 作品以上の主役を歌う。NHK ニューイヤーオペラコンサート、題名のない音楽会他の T.V、FM 出演。第 11 回ジローオペラ賞、第16回サントリー音楽賞、各賞受賞。教会音楽家(ドイツ国家資格 C)。沖縄県立芸術大学教授(2010-2017)。東京大学非常勤講師(2018-2021)。東京二期会会員。日本歌唱芸術協会代表理事。2024年3月 CD リリース予定(貴志康一歌曲/渡辺健二 Pf.、世界初演モノオペラ木下牧子「暁の星」仲村 渠悠子 Pf.)。オペラ *Mulier fortis* 公演実行委員会代表。

公式ホームページ <https://mulierfortisgratia.com/>

リサーチマップ https://researchmap.jp/gratiamusic1_11_4

[Poenitudo 悔悛・細川忠興] 加賀 清孝 *Kiyotaka Kaga* (声楽家バリトン、作曲)

桐朋学園大学卒業。東京藝術大学大学院修了(独唱科専攻)。文化庁オペラ研修所二期生。伊・ボローニャ音楽院留学。文化庁特別派遣で塊・ザルツブルグにて短期研修。演奏活動の傍ら作曲をし、音楽教科書に教材曲、合唱曲等多数掲載。歌曲集は4冊あり、第一「木下夕爾の詩による四つの歌曲」、第三「星野富弘全詩集1「花と」より五つの歌曲」等がある。舞台作品に、コミック・オペレッタ「優しき修道院」、コミック防災音楽劇「御近

所絆物語」、ファミリー音楽劇「手袋を買いに」等、オペラには「幸せの王子」、「タマゴサンドの真相」等があり、次々と発表。YouTube でも様々なジャンルのものを発信し続けている。

歌工房 Bon-Voyage 団長。「架我主門音楽工房」主催。

[Crudelitas 残忍・Adverisitas 逆境] 小貫 岩夫 *Iwao Onuki* (声楽家テノール)

同志社大学神学部および大阪音楽大学(首席)卒業。文化庁オペラ研修所第11期終了。第13回飯塚新人音楽コンクール声楽部門大賞。第36回日伊コンソルソ第2位。第70回日本音楽コンクール入選、他入賞。1995年「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演しデビュー。この成功により翌年、ケムニッツ市立歌劇場(ドイツ)に招聘出演。1998 年度文化庁派遣でミラノへ留学。二期会「魔笛」タミーノ役(実相寺昭雄演出)、佐渡裕プロデュース「こうもり」アルフレード役、二期会「魔弾の射手」主役マックスなど出演。13 年平成天皇皇后両陛下御親覧のチャリティーボールで御前演奏しお言葉を賜る。東京二期会所属。二期会オペラ研修所講師。東京藝術大学非常勤講師。2023 年度第 62 回立教大学メサイア演奏会出演予定(12 月 4 日、東京芸術劇場コンサートホール)

[ナレータ・侍女いと] 大上 幸子 *Sachio Onuki* (声楽家ソプラノ)

国立音楽大学卒業。第一回オペレッタコンクール第3位。第26回奏楽堂日本歌曲コンクール第5位。2013 年2014 年、オペラ《Mulier fortis》公演(いと)役として出演。オペレッタ《リーベクロースター》、コミック防災音楽劇《御近所絆物語》又は《白雪姫》《手袋を買いに》など、子供から大人まで楽しめるファミリー音楽劇に出演、その他学校公演に出演し各地で音楽活動中 J スコラーズ、歌工房「BON VOYAGE」メンバー。東京二期会会員。

[Furor 怒り] 小池 優介 *Yusuke Koike* (声楽家バリトン)

東京藝術大学大学院声楽専攻を首席で修了し、同声会賞・アカンサス音楽賞受賞。在学中、藝大フィルとメンデルスゾーン「エリヤス」エリヤ役、他のソリストとして共演。2019, 2022 年にセイジ・オザワ松本フェスティバルで開催の、白井光子「OMF 室内楽勉強会〜リートデュオ〜発表会」に参加。以来、ドイツリート・日本歌曲・英米歌曲など、ピアノと声楽(リートデュオ)による楽曲を主要なレパートリーとして活動。2022 年「日本音楽コンクール」歌曲部門第 2 位および聴衆賞を受賞。オラトリオやカンタータのソリスト、アンサンプリストとして主に活動し、バッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとしても国内外の演奏会に参加。歌曲の文化を広げるため「有岡音楽教室 新御徒町」を 2023 年 10 月に妻・有岡奈保と共に立上げ、アマチュア向けの歌曲専門の個人レッスンを行う。本年 10 月シューベルト歌曲リサイタルを開催(ピアノ居福健太郎、横須賀芸術劇場主催)。演奏予定は 12 月 18 日ほくとぴあ国際音楽祭共催旧古河庭園リサイタル『ドイツリートで描かれた「おとぎの世界」〜詩の情景を耳で感じるレクチャー付きコンサート』、他。

[Praemium 顕彰/Constantia 不変] 金沢 青児 *Seiji Kanazawa* (声楽家テノール)

東京藝術大学卒業、同大学院を首席で修了し、大学院アカンサス音楽賞受賞。藝大フィル合唱定期演奏会にてバッハ「ミサ曲口短調」のソリストを務める。バロックから現代音楽まで幅広く活躍しており、新作初演・日本初演も多数こなす。日本歌唱芸術協会会員。

[Inquies 不安/Constantia 不変] 西山 詩苑 *Shion Nishiyama* (声楽家テノール)

東京藝術大学声楽科および同大学院修了。平成 28 年度公益財団法人青山財団奨学生。第 74 回全日本学

生音楽コンクール東京大会第 2 位、全国大会入選。第 8 回日光国際音楽祭声楽コンクール入賞。Reiner Trost 氏のマスタークラス受講。第 67 回藝大オペラ定期公演《魔笛》にタミーノ役で出演。大学在学時より朝日新聞社主催の第 68 回、第 69 回藝大メサイアをはじめ、藝大定期第 407 回合唱定期演奏会《ミサ・ソレムニス》でソリストを務める。ほかにも、バッハ作曲《マタイ受難曲》の福音史家、《ロ短調ミサ》、モーツァルト作曲《レクイエム》、《戴冠ミサ》、ハイドン作曲《天地創造》、《四季》など多数のミサ曲やオラトリオにソリストとして出演し、好評を博す。

[チェンバロ] 鈴木 愛美 *Manamii Suzuki*

東京学芸大学及び同大学院、東京藝術大学大学院修了。現在ドイツ国立トロッシンゲン音楽大学修士課程古楽科に在学中。日本では八ヶ岳高原音楽堂の専属チェンバリストとしてソロの演奏会を行う他、通奏低音奏者としてドイツ・オランダ等の音楽祭、演奏会に出演。

[第1ヴァイオリン] 吉川 菜花 *Ayaka Yoshikawa*

東京藝術大学卒。ウィーン市立音楽芸術大学修士課程修了。Homamelis Quartett 第二ヴァイオリン奏者。ウィーン交響楽団、ウィーンフォルクスオーパー客演奏者。第58回全日本学生音楽コンクール東京大会、他、入選。2021 年、地方と都市部の音楽教育格差を是正することを目的として、音楽レッスンサービス「Academy Customize」を立ち上げる。

ホームページ <https://www.academycustomize.com/>

公式 LINE <https://lin.ee/PdEEeJUn>



[第 2 ヴァイオリン] 上蘭 綾奈 *Ayana Kamizono*

東京藝術大学卒、同大学大学院 修了。パリ地方音楽院コンサーティスト課程留学、審査員満場一致でコンサーティスト・ディプロム取得。留学中に、Orchestre des Benjamins と協演。また、Nancy にて開催された音楽祭「Nancyphonies」のメインモデル、同音楽祭のオープニングコンサートをつとめる。第 65 回全日本学生音楽コンクール大阪大会高校生の部第 2 位、全国大会入選。第 24 回日本クラシック音楽コンクール全国大会第 5 位入賞。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール 2018 特別賞（弦楽四重奏）、第 20 回新芸術家協会若き音楽家たちのコンサートグランプリ、第 33 回鹿児島島新人演奏会県知事賞（最高位）など、入賞多数。（財）地域創造のアウトリーチフォーラム事業への出演（ピアノトリオ）、藝大生による木曜コンサート出演（弦楽四重奏）、国内外でのオーケストラとの協演、ソロリサイタル開催など、現在もソロ・室内楽・オーケストラの各分野で幅広く演奏活動を行うと共に、後進の指導にあたる。

[ヴィオラ] 吉澤 知花 *Satoka Yoshizawa*

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部卒業。第 64 回全日本学生音楽コンクール東京大会入選。第 10 回横浜国際音楽コンクール室内楽一般の部 審査員特別賞。東京国際芸術協会からの助成を受けザルツブルグモーツァルトアカデミー受講。第 45 回東京藝術大学室内楽定期演奏会に出演。これまでにヴァイオリンを澤和樹、ジェラルド・プーレ、松原勝也、大谷康子、山崎貴子、瀬崎明日香の各氏に師事。ヴィオラを市坪俊彦に師事。現在後進への指導とヴァイオリン、ヴィオラでの各方面の演奏活動に携わる。

[チェロ] 神倉 辰侑 *Shinsuke Kamikura*

和歌山音楽コンクール、札幌ジュニアコンクールにて第一位。11才より3年間ドイツ単身音楽留学。東京藝術大学大学院修士課程修了、アルカンサス賞受賞。取手市長賞受賞。現在東京藝術大学大学院博士課程2学年に在籍。

[コントラバス] 中島 滯 *Mio Nakajima*

京都市立芸術大学卒業。東京藝術大学大学院修了。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト、セイジ・オザワ松本フェスティバル「子供のためのオペラ」「子供のための音楽会」に演奏参加。現在、都内のオーケストラを中心に客演奏者として活動中。

[コレペティトア 指揮] 佐久間 龍也 *Tatsuya Sakuma*

武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。ウィーン国立音楽・演劇大学ピアノ科及び指揮科に留学(1976-88年)。ピアニスト、指揮者、編曲者。沖縄県立芸術大学名誉教授。これまでに次の企画・2台ピアノ等への編曲・演奏による演奏会を開催している(沖縄県立芸術大学奏楽堂演奏会にて)。2009年:「2台のピアノが奏でる交響曲」ヒンデミット:交響曲「画家マティス」、シェーンベルク:室内交響曲第1番、シベリウス:交響曲第3番、2010年:「マーラー生誕150年記念演奏会」交響曲第1番、第10番、2012年:「ドビュッシー生誕150年記念演奏会」《夜想曲》、2013年:「ワーグナー生誕200年記念演奏会」《パルシファル》《神々の黄昏》、2014年:「リヒャルト・シュトラウス生誕150年記念演奏会」《サロメ》《ばらの騎士》《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》、2018年:「フランツ・シュミットの生涯と作品を巡って」《ノートルダム》。2013年より Mulier fortis 編曲楽譜校訂に携わり、2013, 14年に開催の《Mulier fortis》オペラ公演において指揮を担当した。オペラ Mulier fortis 公演実行委員会委員。

[コレペティトア ピアノ] 林 翔子 *Shoko Hayashi*

国立音楽大学ピアノ科卒業。桐朋学園大学院大学修士課程修了。在学中にオーディション選抜の演奏会に出演。桐朋学園オーケストラアカデミーと協奏曲を共演する。2011年より、ピアノジョイントリサイタルを定期的で開催。2013, 14年に開催の《Mulier fortis》オペラ公演においてピアノ演奏を担当した。合唱伴奏や、ピアニストとしてオペラのコレペティトアなどにも携わる他、連弾、室内楽などの演奏活動を活発に行っている。これまでにピアノを、宮負幸子、内川裕子、草野明子の各氏に師事。

【舞台スタッフ】 林 智子 *Tomoko Hayashi*、井坂 舞 *Mai Isaka*

株式会社アートクリエイション所属